



窮理の部屋 166

AIがあれば、学芸員なんていらんない？！

1. モネの修復

「それはどうでしょう？学芸員や研究者、修復技術者の地道な調査研究や技能があつてのAIの活用だったのでは？」知り合いの学芸員Fさんから言われた言葉です。確かに今はそうなのかもしれないけれど、あと10年も経てば、ほんとに学芸員なんていらなくなるのではと僕は思いました。

何の話かと言うと、東京の美術館らがAIの助けを借りて修復したというモネの絵を観たFさんのツイートへ「学芸員なんていらなかったのかもね。」という僕の反応に対する返事でした。AIというのはもちろん愛ではなく、人工知能＝コンピュータのことです。

美術界に疎い僕なので、この作業にどなたが携わり、その作業がどれだけ大変だったのかを知りません。おそらく、専門知識を駆使した高度な作業であつたに違いありません。

一方で現在、人間業ではとてもできないような精密加工をコンピュータ制御の工作機械ならやり遂げてしまうことを我々は知っています。単純作業ではもはや人手は機械には勝てないし、ほとんどの精密加工もはやかかないません。



CCOのモネの「水連(1916)」。修復され「水連、柳の反映」の画像、元画像をご覧になりたい方は、例えば凸版印刷のホームページ

<https://www.toppan.co.jp/news/2019/06/newsrelease190610.html> をご覧ください。

2. 音楽はどのような？

最近はちょっと下火になったのかあまり見なくなりましたが、ついこないだまで電車の吊革広告に、AIに仕事を奪われる50業種といったような雑誌記事の見出しが躍っていました。漠然と仕事を奪われるのは、創造性の少ない業種で僕には関係ないことだと思っていました。しかし、創造性というのはなんなのでしょう？創造は模倣からしか生まれないのだとしたら？模倣というのがパターンを追いかけるだけのことだとしたら？

音楽ファンなら、バッハとモーツァルトを聴いてどちらが作った曲なのか間違えることはないでしょう。それは難しいなあという人でも、ベートーベンとビートルズの曲を間違える人はいないと思います。なぜでしょう？フルオーケストラで演奏してもビートルズの曲はビートルズ曲だし、エレキギターで演奏してもベートーベンにはベートーベンです。つまり、音符の並び方のパターンで、我々はどちらなのかが分かるのです。

今やパターン認識をするのは、コンピュータの方が得意です。そしてコンピュータは学習したパターンに似せて新たにパターンを生成することだってできます。一昨年ベストセラーになったハラリという人のホモ・デウスという作品にバッハの失われていた曲が発見されたという触れ込みでAIで生成した曲を聞かされたプロを含む聴衆が、まさにバッハだ、素晴らしいと賞賛し、次に真相を聞かされ憤慨したり、絶句したりする話が出てきます。

我々は、パターンで作曲家の違いを認識しているので、バッハとモーツァルトの違いが分かってもリアルバッハとAIバッハの区別はつきません。嘘だと思うなら、<https://bachbot.com/#/?k=dds3b0>を試してみてください。密かに自信があったのですが、僕は60%しか正解できませんでした。

3. AIがあれば専門家はいらない？

我々は、芸術に感動する感性をもっています。しかし、心外かもしれませんが単にパターンに感動しているだけなのかもしれません。意外と芸術分野はAIにとって代わられる可能性が高い！

でも、ここまでごまかしていた話があって、ではそのパターンをAIにどのように学習させたのかについては語っていませんでした。現在のAIをインターネットにつないでモネやバッハを自動検索させただけでは、AIは学習できません。インターネットはゴミだらけだからです。ちゃんとしたデータベースが必要です。じゃあ、データベースさえ構築すれば学習できるのかといえば、そこから何を抽出して、どうパターンとして認識していくのか等々いろんなことをAIに教えなければならず、それを教えられるのは、今のところ専門家しかいないようです。でもいつか、その専門家がいらなくなる日が来るのでは…。なんて考えてしまいます。

大倉 宏(科学館学芸員)